

遠位橈骨動脈穿刺の止血時間短縮のこだわり

(はじめに) 当院では、冠動脈造影、冠動脈ステント留置術において、止血時間短縮にこだわり、時間短縮が可能であることを発表してきた。2017 年 11 月に突然始まった、遠位橈骨動脈の場合、専用の止血デバイスがなかったが、ブリードセーフ HD を使い、止血時間の短縮が可能であることを発表してきた。2019 年になり、遠位橈骨動脈穿刺の専用止血デバイス、プレリュードシンク・ディスタル(以下 PSD)が発売され、PSD でも同様に止血時間短縮が可能であるかは不明である

(目的) 遠位橈骨動脈穿刺において、PSD を使用し、当院独自のプロトコールで止血を行い、止血時間が短縮できるか、合併症の有無について検討。

(対象・方法) 遠位橈骨動脈血穿刺の連続 13 症例に、PSD を使用した。止血プロトコールは以前から行っていた当院独自のプロトコールであり、カテ室でシース抜去後、出血ギリギリまで減圧し帰室。シース抜去、30 分後に出血ギリギリまで減圧。これを 30 分ごと全減圧まで行ない、全減圧 60 分後にバンドを外すものである。帰室後の止血行為は全て看護師が行うものである。

(結果) ブリードセーフ HD では、止血時間の平均は 46 分。PSD の場合は全例で 30 分で止血が可能であった。ブリードセーフ HD では動脈閉塞、疼痛、痺れはなかったが、極小の血腫形成があった。PSD では動脈閉塞、血腫形成、疼痛、しびれ等の合併症はなかった。

(考察) PSD での症例数がまだ少ないが、専用デバイスであり、安全、確実な止血が行えると思われた。